

2023年7-9月期四半期別GDP速報（1次QE）公表に際しての
新藤経済財政政策担当大臣談話

2023年11月15日（水）

1. 本日公表の2023年7-9月期GDP速報値では、実質成長率は前期比マイナス0.5%と3四半期ぶりにマイナス、名目成長率は前期比マイナス0.0%と4四半期ぶりにマイナスとなった。

実質成長率の内訳を見ると、内需については、

- ① 個人消費は、飲食などサービスは持ち直しが継続したものの、物価上昇の影響もあり、横ばいとなった。
- ② 設備投資は、資材価格上昇の影響もあり、機械投資や建設投資が減少し、マイナス0.6%となった。

また、外需については、自動車等の財の輸出が増加した一方で、サービスを中心に輸入の増加が上回ったため、外需の寄与は2四半期ぶりのマイナスとなった。

2. 今回の7-9月期の1次速報の結果では、個人消費や設備投資といった内需は力強さを欠いていた。今後については、中国経済の先行き懸念など海外景気の下振れが我が国経済を下押しするリスク等にも注意が必要である。

3. 政府としては、11月2日に閣議決定した「デフレ完全脱却のための総合経済対策」に基づき、物価高対策や国民の可処分所得の下支えに万全の対策を講じるとともに、構造的賃上げに向けた供給力の強化を図る。その裏付けとなる令和5年度補正予算の早期成立に全力を挙げる。

（以上）